

研究成果報告書

課題番号 15300211

平成 15 年度～平成 17 年度科学研究費補助金  
基盤研究(B)(2)

感性教育のためのリズムカル・ムーブメント・プログラムの開発

平成18年3月

研究代表者 滝沢 かほる  
新潟大学教育人間科学部

# RHYTHM

新潟大学附属図書館



1060034265

81.4  
Ta 73

## 目 次

序 本研究の内容	1
研究組織	3
研究発表 ア. 学会誌等	4
イ. 口頭発表	5
ウ. 出版物	6
第1章 感性教育におけるリズムカル・ムーブメントの意義	9
第1節 感性教育のためのリズムカル・ムーブメント・プログラムに関する研究 (小林日出至郎)	11
第2節 リズムカル・ムーブメント教育としてのリズム体操の成立と展開 (滝沢かほる)	15
第3節 音楽の立場から (森下修次)	24
第4節 リズムカル・ムーブメントにおける美的体験についての検討 (坂下玲子 滝沢かほる)	26
第2章 音楽と動き	33
第1節 体操と音楽 (滝沢かほる)	35
第2節 ボーデのピアノ曲の分析～内にある感覚を求めて～ (田中幸治)	40
第3節 リズムカル・ムーブメントと視覚芸術 (近藤フジエ)	45
第4節 リズムカル・ムーブメントにおける音楽と動きの研究 ～音楽構成の理解と動きの変容との関係性～ (伊野義博 菅家礼子 坂下玲子 滝沢かほる 田中幸治 森下修次)	50
第3章 リズムカル・ムーブメント・プログラム実施による感性的変容の評価・測定方法	59
第1節 感性教育のための体育学習に関するアンケート研究 ―リズムカル・ムーブメント・プログラムの開発を目的として― (滝沢かほる 阿保雅行 小林日出至郎)	61
第2節 リズム運動の3次元動体画像再構成法に関する研究 (松浦史法 藤澤延行 滝沢かほる)	80
第3節 歩行時の人体の運動と動的ゆらぎ特性(岡本芳三 住谷正夫 安久正紘 滝沢かほる 鴨井新生)	83
第4節 運動する人体の動的特性とその解析 (岡本芳三 住谷正夫 安久正紘 滝沢かほる 山崎健 坂下玲子 鴨井新生)	87
第5節 運動時の自律神経と情動反応 (山崎健)	92
第4章 動きの観察力	95
第1節 FLOW OF RHYTHMICAL MOVEMENT (Fujie Kondo Kaoru Takizawa Fuminori Matsuura Nobuyuki Fujisawa)	97
第2節 アナグリフ立体画像によるリズムカルな動きの流れ (滝沢かほる 松浦史法 藤澤延行 近藤フジエ)	99
第3節 アナグリフを用いた立体画像と普通の画像による動きの印象の差異 (坂下玲子 滝沢かほる 松浦史法 藤澤延行 近藤フジエ)	102
第5章 リズムカル・ムーブメント・プログラムの指導実践と評価	107
第1節 リズム体操の学習体験を構成する要素間の関連 (小黑美智子 佐藤朗子)	109
第2節 リズム体操の学習体験に関する仮説モデルの構築 (小黑美智子 佐藤朗子)	115
第3節 リズム体操授業における音楽学習の方法論 (森下修次 滝沢かほる 榎本暢子)	125
第4節 指導実践：リズム体操授業における音楽学習の方法論 (伊野義博 高山雄一)	130
第5節 芸術教育の連携 ―音楽・身体表現・絵画― (近藤フジエ 滝沢かほる 伊藤純子)	139
第6節 「リズム体操の授業」―感性教育の視点を取り入れて― (菅家礼子)	147

第7節	リズム体操授業の学習効果 ―作品の構成と単元計画について― (高山雄一 滝沢かほる 小林日出至郎 阿保雅行)	160
第8節	リズム体操授業の感性教育に関わる学習効果 ―作品の構成と単元計画について― (高山雄一 滝沢かほる 小林日出至郎 阿保雅行)	169
第9節	リズムカルな運動の生理心理学的効果 (山崎健)	177
第10節	リズム体操 ―作品提示型の授業実践報告― (丸山久志 末武恭子 佐藤仁 滝沢かほる)	180
第11節	リズムカルで全身的な動きの楽しさを味わう子どもの育成 ～2年 基本の運動「音楽に合わせながら行ういろいろな動き遊び」を通して～ (大石康範)	189
第12節	楽しみながら体力の向上を図る学校体操『東っ子たいそう』を取り入れた実践 (日野憲一 滝澤 かほる)	196
第13節	中学校における体操実践 ―なわを使った体操作品の構成と授業実践―	200
第6章 資 料		
	リズム体操楽譜 (森下修次)	217
	リズム体操作品 DVD (榎本楊子 森下修次 齋藤薫 猪又悦子 滝澤かほる)	219

## 序 本研究の内容

学習指導要領に示されているように、今日、子ども達を取り巻く社会にはめざましい変化が見られ、豊かな人間性を育むべき時期の教育にさまざまな課題がある。そのような中、これからの学校教育のあり方として「生きる力」の育成を基本に、豊かな人間性や社会性、国際社会に生きる日本人としての自覚、自ら学び考える力、個性を生かす教育などがねらいとされている。

「生きる力」と関係する「豊かな人間性とたくましい体をはぐくむための教育」は、今日の学校体育に求められている重要な課題でもあり、体育・スポーツ教育による「感性教育」と関係している。

「感性」教育とは、価値あるものを感覚により実感する能力の教育であり、理性と感性の融合における人間性の回復の理念としてとらえられる。これらは歴史的にも体育の課題として扱われてきた。

20世紀の初頭、ボーデは「生命現象としてのリズム」を根拠に、「人間はリズムカルな動きによって理性の偏りから解放され得る」とし、リズム体操を確立し、こころとからだの解放に効果をあげた。ヨーロッパでは、機械化された社会で、知的教育が重視され、人間の心や自然な運動が著しく抑圧されていたので、「体操」によって、人間本来の姿を取り戻し、自然な動きを呼び戻そうという運動が起きた。それまでスウェーデン式体操やシュピースのドイツ式体操による、人為的・形式的な運動が行われていたのに対して、「こころとからだの解放」のための全身的・自然的な動きの必要性が唱えられたのである。

また当時、リズム教育の必要性がデルサルト、メンゼンディーク、カルマイエル、ドメニー、ダルクロワ、ボーデ、ラバン、ウィグマン等によって音楽、舞踊、体操それぞれの立場から唱えられ研究が進められた。

中でもドイツのボーデは「生命現象としてのリズム」を根拠に、「人間はリズムカルな動きによって理性の偏りから解放され得る」とし、新しい体操を確立した。ボーデは、運動のリズムを単に時間的な分節の繰り返しではなく、緊張と解緊の流れるような交替に特徴があるとし、その運動過程を研究した。更に、生活やこころのひずみは、運動経験を阻害し潜在的な能力をも抑圧する。このひずみを解消するのが、生の哲学に基づいたリズムカルな動きだとした。ボーデはクラゲスとの討論を経て、このような理論を深め、リズムカルな自然な動きの教育としてのリズム体操を確立した。メダウをはじめとする後継者達によって更に発展し今日に至っている。音楽と一体化して心から生き生きと楽しく動く「リズム体操」は、生涯体育として心身の健康に成果を上げている。

このように、「音楽と動きとが統一したリズムカル・ムーブメント」は、豊かな人間性を育む感性教育に大いに貢献すると考える。

本研究が対象とするリズムカル・ムーブメントは「リズムカルな全身的動きを中核としたリズム体操」である。これは「人間を生命体・有機体としてとらえ、内面から生ずる運動の衝動を自然的・全身的にリズムカルな動きに表すこと」を目的とした身体運動である。

本研究では、感性教育をめざしたリズムカル・ムーブメント（リズム体操）に焦点を当て、「体育・音楽・芸術の立場からの感性教育の理論的背景」を押さえ、「運動プログラムと音楽を作成」し、指導実践により感性教育への効果を実証しつつ、より効果的な「リズムカル・ムーブメント・プログラム」を提供する。具体的には以下の通りである。

1. 感性教育におけるリズムカル・ムーブメントの意義をとらえる。
2. 音楽とリズムカルな動きとの関係を、体育・音楽・芸術的立場から理論的・実験的にとらえる
3. リズムカル・ムーブメント・プログラム実施による感性的変容の評価・測定方法について、提案する。
4. 感性的認識は直感に現れ創造性を生むという前提のもとに、画像による「動きの観察力」を調査する。
5. リズムカル・ムーブメント・プログラムを提供し、指導実践により、感性教育としての効果と特性を明らかにする。

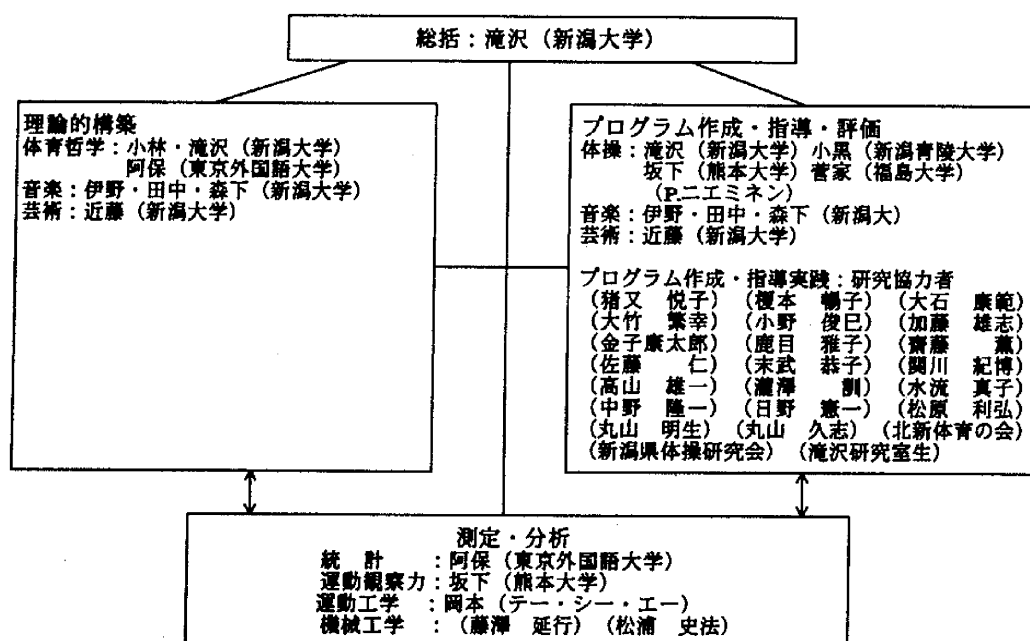
本報告書は最終年度にあたっての研究成果のまとめである。リズムカル・ムーブメントの感性教育としての意義、体育・音楽・芸術との連携の可能性、感性的変容の評価・測定方法が明らかになり、またリズムカルな全身的動きを中核とした体操プログラムを提供し実施評価することができた。今後の研究の出発点として新たな一歩を踏み出したい。

研究分担は、表に示したとおりである。内外の体操、芸術、音楽、体育哲学、運動生理、運動工学を専門とする研究分担者、および、海外研究者、工学専門家、社会体育・学校現場での指導者などの研究協力者からなっている。

その他、授業実践校の教職員・児童・生徒・学生の皆様、新潟県体操研究会会員、北新体育の会会員、新潟大学滝沢研究室学生、資料分析整理担当の大橋千恵子さん・坂井シズ子さんほか多くの方から、多大なご協力、資料提供を受けた。

この場をお借りして、協力いただいた全ての方々に感謝の意を表します。

## 研究分担



## 研究組織

研究代表者：滝沢かほる (新潟大学教育人間科学部・教授)  
 研究分担者：近藤フジエ (新潟大学教育人間科学部・教授)  
 研究分担者：伊野 義博 (新潟大学教育人間科学部・教授)  
 研究分担者：山崎 健 (新潟大学教育人間科学部・教授)  
 研究分担者：森下 修次 (新潟大学教育人間科学部・助教授)  
 研究分担者：小林日出至郎 (新潟大学教育人間科学部・助教授)  
 研究分担者：田中 幸治 (新潟大学教育人間科学部・助教授)  
 研究分担者：小黑美智子 (新潟青陵大学短期大学部・幼児教育学科・教授)  
 研究分担者：坂下 玲子 (熊本大学教育学部・助教授)  
 研究分担者：岡本 芳三 (有限会社テー・シー・エー・研究開発部長)  
 研究分担者：阿保 雅行 (東京外国語大学外国語学部・教授)  
 研究分担者：菅家 礼子 (福島大学人間発達文化学類・教授) (平成 16・17 年度)  
 研究分担者：市村 操一 (東京成徳大学人文学部・教授) (平成 15 年度)

海外共同研究者：ピプサ・ニエミネン (ユヴァスキュラ大学・体育学部・講師)

研究協力者：猪又 悦子 (新潟県栃尾市立秋葉中学校・教諭)  
 研究協力者：榎本 暢子 (新潟県体操研究会・リズム体操インストラクター)  
 研究協力者：大石 康範 (新潟県新発田市立米倉小学校・教諭)  
 研究協力者：大竹 繁幸 (新潟県新発田市立五十公野小学校・教諭)  
 研究協力者：小野 俊巳 (新潟県新発田市立外ヶ輪小学校・教諭)  
 研究協力者：加藤 雄志 (新潟県五泉市立村松小学校・教諭 新潟大学大学院教育学研究科修士課程・院生)  
 研究協力者：金子康太郎 (新潟県新発田市立米倉小学校・教諭)  
 研究協力者：鹿目 雅子 (新潟県長岡市立川崎小学校・教諭)  
 研究協力者：齋藤 薫 (新潟県新潟市立葛塚小学校・教諭)  
 研究協力者：佐藤 仁 (新潟県新発田市立五十公野小学校・教諭)  
 研究協力者：末武 恭子 (新潟県新発田市立五十公野小学校・教諭)  
 研究協力者：関川 紀博 (新潟県新発田市立御免町小学校・教諭)  
 研究協力者：高山 雄一 (新潟県胎内市立中条小学校・教諭 新潟大学大学院教育学研究科修士課程・院生)  
 研究協力者：瀧澤 訓 (新潟大学教育人間科学部附属長岡小学校・教諭)  
 研究協力者：水流 真子 (新潟大学教育人間科学部附属新潟中学校・教諭)  
 研究協力者：中野 隆一 (新潟県阿賀野市立水原小学校・教諭)  
 研究協力者：日野 憲一 (新潟県五泉市立五泉東小学校・教諭)  
 研究協力者：藤澤 延行 (新潟大学自然科学系 (工学)・教授)  
 研究協力者：松浦 史法 (新潟大学大学院自然科学研究科博士課程・院生)  
 研究協力者：松原 利弘 (新潟大学教育人間科学部附属新潟小学校・教諭)  
 研究協力者：丸山 明生 (新潟大学教育人間科学部附属新潟中学校・教諭)  
 研究協力者：丸山 久志 (新潟県新発田市立五十公野小学校・教諭)  
 研究協力者：新潟県体操研究会  
 研究協力者：北新体育の会  
 研究協力者：新潟大学教育人間科学部滝沢研究室学生・院生

## 研究経費

平成 15 年度	5,600	千円
平成 16 年度	5,300	千円
平成 17 年度	3,000	千円
合計	13,900	千円

## 研究発表

### ア. 学会誌等

- ・ Kaoru Takizawa, Fuminori Matsuura, Nobuyuki Fujisawa, Fujie Kondo, Flow of Rhythmical Movement, SCIENCE AND ART INTERNATIONAL SYMPOSIUM (4TH), 06.2005
- ・ 滝澤かほる 松浦史法 藤沢延行 近藤フジエ アナグリフ立体画像によるリズムカルな動きの流れ 可視化情報 Vol. 25 No. 2 pp. 343~346 2005 年 10 月
- ・ 松浦史法 滝澤かほる 藤沢延行 リズム運動の 3 次元動体画像再構成法に関する研究 可視化情報 Vol. 25 No. 2 pp. 347~348 2005 年 10 月
- ・ 坂下玲子 滝澤かほる 松浦史法 藤沢延行 近藤フジエ アナグリフを用いた立体画像と普通の画像による動きの印象の差異 可視化情報 Vol. 25 Suppl. No. 2 pp. 349~352 2005 年 10 月
- ・ 滝澤かほる 阿保雅行 小林日出至郎 感性教育のための体育学習に関するアンケート研究ーリズムカル・ムーブメント・プログラムの開発を目的としてー新潟大学教育人間科学部紀要第 8 巻第 1 号 97~116 頁 2005 年 11 月 pp. 97~116
- ・ 高山雄一 滝澤かほる 阿保雅行 小林日出至郎 リズム体操授業の学習効果ー作品の構成と単元学習についてー新潟体育学研究第 23 巻 33~40 頁 2005 年 11 月
- ・ 高山雄一 滝澤かほる 阿保雅行 小林日出至郎 リズム体操授業の感性教育に関わる学習効果ー作品の構成と単元計画についてー新潟体育学研究第 24 巻 2006 年 (予定)
- ・ 日野憲一 滝澤かほる 楽しみながら体力の向上を図る学校体操『東つ子体操』を取り入れた実践 新潟体育学研究第 24 巻 2006 年 (予定)
- ・ 伊野義博 森下修次 田中幸治 滝澤かほる 坂下玲子 菅家礼子 リズムカル・ムーブメントにおける音楽と動きの研究ー音楽構成の理解と動きの変容との関係性ー新潟大学教育人間科学部紀要第 7 巻第 1 号 2004 年 10 月
- ・ 森下修次 榎本暢子 滝澤かほる リズム体操授業における音楽学習の方法論 1 新潟大学教育人間科学部紀要 第 8 巻第 2 号 2006 年 2 月 pp. 193-204
- ・ 伊野義博 高山雄一 リズム体操授業における音楽学習の方法論 II 新潟大学教育人間科学部紀要 第 8 巻第 2 号 2006 年 2 月 pp. 205~213
- ・ 近藤フジエ 滝澤かほる 伊藤純子 芸術教育の連携ー音楽・身体表現・絵画ー大学美術教育学会誌 第 38 号 pp. 169-176 2006 年 3 月
- ・ 丸山久志 滝澤かほる 末武恭子 佐藤仁 リズム体操ー作品提示型の授業実践報告ー新潟大学教育人間科学部附属教育実践総合センター研究紀要 第 5 号 〇~〇頁 2006 年 (予定)
- ・ 大石康範 滝澤かほる 丸山久志 低学年向けのリズム体操の授業実践報告 新潟大学教育人間科学部附属教育実践総合センター研究紀要 第 5 号 〇~〇頁 2006 年 (予定)
- ・ 滝澤かほる ピプサ・ニエミネン ヴァイノ・ヴァルスタラ 坂下玲子 教員養成大学における体育科学生の指導技能の自己評価ー新潟大学と熊本大学を中心にー新潟大学教育人間科学部附属教育実践総合センター研究紀要 第 4 号 pp. 93-98 2005
- ・ 坂下玲子 滝澤かほる リズムカル・ムーブメントにおける美的体験についての検討 熊本大学教育学部紀要 第 54 号 pp. 157~163 2005 年 11 月
- ・ 坂下玲子 大谷武一の体操論とその影響についての一考察 九州体育・スポーツ学研究第 18 巻第 1 号 pp. 1-6 2004
- ・ 小黒美智子 佐藤朗子 リズム体操の学習体験に関する仮説モデルの構築 新潟青陵大学短期大学部研究報告 第 34 号 P. 1~12 2004 年 5 月
- ・ 小黒美智子 佐藤朗子 リズム体操の学習体験を構成する要素間の関連 新潟県体育学研究第 24 巻 2006 年 (予定)
- ・ 伊野義博 ことばから始める授業 Iー題材「にほんごは おんがくのすてきなおかあさん (小学校 1 年生)」の実践からー新潟大学教育人間科学部紀要 第 6 巻第 1 号 pp. 105~126 頁 2003
- ・ 伊野義博 (他 1 名) ことばから始める授業 IIー題材「ふしをつくって重ねよう (小学校 3 年生)」の実践からー新潟大学教育人間科学部紀要 第 6 巻 第 1 号 pp. 127~138
- ・ 岡野勉 伊野義博 (他 10 名)「教員養成カリキュラムとしての 1 年次教育実習-新潟大学教育人間科学部『入門教育実習』における学びの様相」『教科教育学研究』第 22 集 pp. 103-116 2004. 3
- ・ 伊野義博 森下修次 鈴木理恵 南雲直子 梨本佳代 廣瀬綾乃 眞坂弥央子 堀井キミ子 村上市村上地区のわらべうた 新潟大学教育人間科学部附属教育実践総合センター研究紀要 第 3 号 pp. 79-110 2003
- ・ 伊野義博 寺社の祭礼に関わる舞楽の伝承研究 (報告書) 天王寺舞楽伝播可能性の検証-天王寺・新潟

- 県能生町白山神社・静岡県森町小國神社の太平楽（泰平楽）の三者比較 日本伝統音楽教育研究センター 2003
- ・伊野義博 民俗音楽継承の要因を探る一村上市村上地区における祝祭の音楽の事例からー 民俗音楽研究 第30号 pp.1-10 2005.3
  - ・伊野義博 日本伝統音楽の特性を把握するための諸課題『新潟大学教育人間科学部紀要 第8巻第1号』平成17年9月20日 pp.87-95
  - ・伊野義博 高山雄一「リズム体操授業における音楽学習の方法論Ⅱ 新潟大学教育人間科学部紀要 第8巻第2号 pp.205-213 2006.2
  - ・伊野義博 中央の舞楽と地方の舞楽ー大阪天王寺舞楽と遠江小國神社・能生白山神社の太平楽（泰平楽）を比較してー 雅亮会会報 2005
  - ・山崎健 杉本英夫 加名生さやか 馬場裕子 瞬時心拍変動による運動経過の記録 新潟大学教育人間科学部紀要・自然科学編 第7巻2号 pp.157-167 2005
  - ・山崎健 運動技術の習得課程を考え直す たのしい体育・スポーツ 175号 pp.8-11 2005
  - ・山崎健 身体運動研究の動向 ～アフォーダンスと運動の自己組織化～ 運動文化研究 22巻 pp.1-4 2004
  - ・山崎健 スポーツ動作を知ろう スポーツのひろば 369号 pp.16-19 2004
  - ・笠巻純一 杉本英夫 宮西邦夫 山崎健 笠井直美 公共運動施設利用者における生活習慣病発症状況（第2報） 新潟体育学研究 22巻 pp.13-21 2004
  - ・山崎健 新潟の子どもの生活の変化とスポーツ活動 にいがたの教育情報 第74号 pp.28-33 2003
  - ・山崎健 他2名 PWC170 テストによる持久的能力の推定 新潟大学教育人間科学部紀要・自然科学編 第6巻2号 pp.161-167 2004
  - ・山崎健 馬場裕子 ソリタラト 岡本芳三 長距離ランニング中のペース変化と瞬時心拍変動 新潟大学教育人間科学部紀要・自然科学編 第8巻2号 pp.109-123 2006
  - ・山崎健 体力ってなあに？ たのしい体育・スポーツ No.186 pp.20-23 2006
  - ・岡本芳三 滝沢かほる 山崎健 鴨井新生 可視および熱マーカに関する運動時の人体の識別限界について 第31回可視化情報シンポジウム Vol.23 Suppl.2003 pp437-438
  - ・住谷正夫 岡本芳三 安久正紘 滝沢かほる 山崎健 坂下玲子 鴨井新生 人体の可視および赤外線による運動計測とその解析 第32回可視化情報シンポジウム Vol.24 Suppl.2004 pp353-356
  - ・岡本芳三 住谷正夫 安久正紘 滝沢かほる 山崎健 坂下玲子 鴨井新生 運動する人体の動的特性とその解析 第33回可視化情報シンポジウム Vol.25 Suppl.2005 pp443-446
  - ・滝沢かほる 山崎健 岡本芳三 坂下玲子 身体の運動と温度の同時計測と解析 福祉工学シンポジウム No.03-28,8B31 2003 pp101-105
  - ・岡本芳三 住谷正夫 安久正紘 滝沢かほる 山崎健 坂下玲子 鴨井新生 人体の可視および赤外線による運動と温度計測とその解析 第3回福祉工学シンポジウム No.04-42 2004 pp61-64
  - ・岡本芳三 住谷正夫 安久正紘 滝沢かほる 山崎健 坂下玲子 鴨井新生 歩行時の人体の運動と揺らぎ特性 福祉工学シンポジウム 2005 No.05-44 pp61-64

## イ.口頭発表

- ・滝沢かほる 阿保雅行 小林日出至郎 感性教育のための体育学習に関するアンケート検討ーリズムカル・ムーブメント・プログラムの開発を目的としてー 日本体育学会第56回大会 2005.11
- ・高山雄一 滝沢かほる リズム体操授業の単元計画と作品の構成 日本体育学会第56回大会 2005.11
- ・Kaoru Takizawa, Fuminori Matsuura, Nobuyuki Fujisawa, Fujie Kondo, Flow of Rhythmical Movement, SCIENCE AND ART INTERNATIONAL SYMPOSIUM (4TH) New Jersey, 08.2005
- ・P. Nieminen, V. Varastala, K. Takizawa, R. Sakashita, A Comparison of the Attitudes of Finnish and Japanese Physical Education Students Toward Educational Approaches to Teaching, AIESEP Lisbon, 2005
- ・滝沢かほる 松浦史法 藤沢延行 近藤フジエ アナグリフ立体画像によるリズムカルな動きの流れ 可視化情報全国講演会 2005.11
- ・松浦史法 滝沢かほる 藤沢延行 リズム運動の3次元動体画像再構成法に関する研究 可視化情報全国講演会 2005.11
- ・坂下玲子 滝沢かほる 松浦史法 藤沢延行 近藤フジエ アナグリフを用いた立体画像と普通の画



- 像による動きの印象の差異 可視化情報全国講演会 2005. 11
- ・ 高山雄一 滝澤かほる 阿保雅行 小林日出至郎 リズム体操授業の学習効果 新潟県体育学会平成 16 年度大会 2004. 10
  - ・ 高山雄一 滝澤かほる 阿保雅行 小林日出至郎 感性教育に関するリズム体操授業の学習効果 ― 作品の構成と単元学習について― 新潟県体育学会平成 17 年度大会 2005. 10
  - ・ 日野憲一 滝澤かほる 楽しみながら体力の向上を図る学校体操『東っ子体操』を取り入れた実践 新潟県体育学会平成 17 年度大会 2005. 10
  - ・ 藤崎賢二 緒方俊郎 塩村勝正 平松伸一 坂下玲子 庭木守彦 戦術学習における GPAI 適用についての検討―小学校球技領域の学習過程に応じた GPAI の具体化をめざして― 日本体育学会第 54 回大会 2002. 11
  - ・ 加藤雄志 滝澤かほる 小学校における器械運動の集団演技について ―集団マットの教材価値― 日本体育学会第 56 回大会 2005. 11
  - ・ 水流真子 滝澤かほる 剣道における面打ち動作の初心者指導 日本体育学会第 56 回大会 2005. 11
  - ・ 高山雄一 滝澤かほる バスケットボール型ゲームにおける児童相互の言葉かけ 日本体育学会第 55 回大会 2004. 9
  - ・ 塩村勝正 緒方俊郎 藤崎賢二 平松伸一 坂下玲子 庭木守彦 戦術行動を学ばせるための指導の工夫―戦術行動の段階性と IT の活用― 日本体育学会第 54 回大会 2002. 11
  - ・ 平松伸一 緒方俊郎 塩村勝正 藤崎賢二 坂下玲子 庭木守彦 戦術的学習内容を明確にした授業過程の研究―小学校バスケットボール型授業において― 日本体育学会第 54 回大会 2002. 11
  - ・ 伊野義博 地方舞楽における唱歌と身体表現に関する研究―能生町白山神社舞楽奏平楽・森町小國神社十二段舞楽太平楽を中心に― 平成 14 年度京都市立芸術大学日本伝統音楽研究センター委託研究平成 14 年度特別研究員・委託研究員研究発表会 2003. 5
  - ・ 伊野義博 教員養成学部における授業と教育実践を結びつけるカリキュラム開発の現状と課題(新潟大学教育人間科学部学校教育課程音楽教育専修の場合) 教大協全国音楽部門大学部会第 28 回全国大会第 1 分科会 2003. 5
  - ・ 伊野義博 日本伝統音楽の特性を把握するための諸課題 日本学校音楽教育実践学会 2003. 8
  - ・ 伊野義博 日本語からはじめる音楽の授業―小学校 1 年生の題材「にほんごは、おながくのすてきなおかあさん」の実践を通して― 日本音楽教育学会第 34 回全国大会 2003. 11
  - ・ 伊野義博 スティーヴン・G・ネルソン 山内雅子 「越天楽今様」再考―つくられた歴史と教材性―、日本音楽教育学会第 35 回大会 2004. 11. 14
  - ・ 伊野義博 学校教育における日本民俗音楽教育の実践―その現状を課題―音楽担当教員養成をめぐる日本民俗音楽学会研究会 2004. 11. 18-19
  - ・ 伊野義博 小中学校 9 年間にわたる日本音楽のカリキュラム試案―その骨子― 日本学校音楽教育実践学会 2005. 8. 19
  - ・ 伊野義博 実践を通して知る民俗音楽のしくみ 日本音楽教育学会第 8 回妙高ゼミナール分科会「―日本音楽を教える前に―」 2005. 9. 10
  - ・ 伊野義博 鬼太鼓ワークショップ 鬼太鼓体験
  - ・ 伊野義博 日本語の持つ特性を基にした小学校音楽科のプログラム開発 第 6 回中日音楽比較研究国際学術会議湖南省湖南師範大学, 2005. 9. 14-18
  - ・ 伊野義博 シャガリの諸相 その 4 : 新潟の祭礼におけるシャギリ 京都芸術大学日本伝統音楽研究センター共同研究会「祇園囃子の源流に関する研究」2005. 10. 15
  - ・ 岡本芳三 住谷正夫 小口喜三夫 歩行時の姿勢に伴う揺らぎ特性 第 13 回電気学会茨城支所研究発表会

## ウ. 図 書

- ・ TAKIZAWA Kaoru, The theory and method of our gymnastics system as the natural movement education, Globalisierung des Sports: Zur Rolle der japanischen und deutschen Sportwissenschaft pp. 56-65 2004
- ・ 坂下玲子 大島扶美監修 「運動による自己表現とは」子どものボディセンスを伸ばす本 山海堂 pp. 102-121 2005.
- ・ 西園芳信(監修) 伊野義博 中学校音楽科の指導と評価 暁教育図書 (担当箇所「序章 学校音楽の新たな実践に向けて」9-13 頁、「曲の仕組みから考える私の歌いたい『夏の思い出』」112-115 頁「歌舞伎とオペラでの音楽とそれ以外の表現手段」132-135 頁「速度や強弱に注意して運命の動機を追いか

- けよう」140-145 頁) 2003
- ・ 高萩保治 (編) 伊野義博 音楽学習のフロンティア 玉川大学出版部、(担当箇所「未来へつながる民俗音楽」149-165 頁) 2003.6
  - ・ 加藤富美子 (編) 伊野義博 小学校音楽教育実践指導全集 第4巻 中学年 内容の広がりに関わりを大切に アカデミープロモーション (担当箇所「(総合的な学習と音楽科のかかわり) 地域や学校の特色に応じた課題」63-69 頁)
  - ・ 伊藤俊彦 伊野義博 (20 名) 小学音楽 おんがくのおくりもの1 教育出版 2004
  - ・ 伊藤俊彦 伊野義博 (20 名) 小学音楽 おんがくのおくりもの2 教育出版 2004
  - ・ 伊藤俊彦 伊野義博 (20 名) 小学音楽 おんがくのおくりもの3 教育出版 2004
  - ・ 伊藤俊彦 伊野義博 (20 名) 小学音楽 おんがくのおくりもの4 教育出版 2004
  - ・ 伊藤俊彦 伊野義博 (20 名) 小学音楽 おんがくのおくりもの5 教育出版 2004
  - ・ 伊藤俊彦 伊野義博 (20 名) 小学音楽 おんがくのおくりもの6 教育出版 2004
  - ・ 山本文茂監修 伊野義博 和楽器指導の内容 セレーノ CD-ROM 版音楽科教育実践講座 理論編2 ニチブン、pp. 11-17 2004, 4
  - ・ 山本文茂監修 伊野義博 中学校各学年の評価 セレーノ CD-ROM 版音楽科教育実践講座 理論編3 ニチブン pp. 61-83 2004, 4
  - ・ 日本音楽教育学会編著 伊野義博 (218 名) 伝統音楽 音楽教育における意義 日本音楽の指導 実践 『日本音楽教育事典』音楽之友社 p. 601, pp. 626-627 2004. 3. 31
  - ・ 三善晃 伊野義博 (24 名) 中学音楽1 音楽のおくりもの 教育出版 2005
  - ・ 三善晃 伊野義博 (24 名) 中学音楽2 音楽のおくりもの 教育出版 2005
  - ・ 三善晃 伊野義博 (24 名) 中学音楽3 音楽のおくりもの 教育出版 2005